

## 学会通信 研究室紹介

### 京都教育大学体育学科学校保健研究室

本研究室は保健体育教師の志望者の中で、保健分野に興味のある学生が集まってきます。京都教育大学は歴史のある大学で、学校保健においても多くの先生がおられました。私が直接存じているのは、前任の金井秀子先生、今年名誉会員になられた寺田光世先生、福岡教育大学に赴任された松浦賢長先生の3人ですが、お辞めになった後は不補充となり、現在の保健分野は私のみとなってしまいました。現在、大学院にはM2が1名、M1が1名、研究生が1名で、学部は4回生が8名、3回生が6名で、合計17名が所属しています。保健分野の研究室が1つしかないため、学生が興味を持つ研究分野は多彩です。大学院生の一人は「運動部活動のストレス」について、もう一人は「はだし教育」について研究しています。今春修了した2人の院生の修士論文は、「運動が学習に及ぼす影響－BDNFに着目して－」と「中高生における「キレル」ことと生活習慣との関連－睡眠習慣を中心に－」で、2人とも精力的に研究に取り組んでいました。私自身は小児の生活習慣病を中心に研究しており、京都府立医科大学小児科の藤原先生との共同研究で、肥満児の運動や健康教育について調査しています。また、本学保健管理センターの森先生には大学院の授業で学校保健のメンタルヘルスを担当していただきおり、学生のメンタルヘルスや摂食障害などのアドバイスをいただき、大変助かっております。今後、共同で行える研究について話し合っているところです。養護教諭経験者の研究生である浅井生は保健教育に熱心に取り組んでおり、ゼミにも参加していただいて学校内の実際の様子や問題点を話され、学生たちに大きな刺激を与えています。本学の学生たちは活発でユニークな発想で議論をしてくれますので、楽しく研究ができ、今年の近畿学校保健学会の開催に際してもスタッフとして大きな力となってくれました。学校保健は教育分野としてはもちろんですが医療分野としても今後重要な役割を果たす領域です。京都地区で、研究に関心を持つ養護教諭や、興味を持つ学生がもっと増えて欲しいと希望しています。(文責 井上文夫)